

自然の力

Kavli IPMU 機構長

村山 斉 むらやま・ひとし

ハリケーン・サンディーは記録に残る大西洋最大のハリケーンで、200人近くの方が亡くなりました。Kavli IPMUでも何人ものメンバーがSuMIRe計画PFS装置のプリントンでの会合へ向かう途中、足止めにあいました。私自身、カリフォルニアからニューヨークへのフライトがキャンセルされてしまいました。現代の文明社会で、自然が私達の誰よりもいかに大きな存在か、思い知らされる稀な機会でした。愛する人、家、仕事を失った方々に心からお悔やみを申し上げます。

今号では日本の研究の伝統的なトピックを取り上げます。ニュートリノ天文学です。小柴昌俊さんが2002年にノーベル物理学賞を受賞されましたが、これは超新星爆発からのニュートリノの発見と、太陽ニュートリノのリアル・タイムの検出を可能にし、この分野を確立した業績に対して与えられたものです。我がマーク・ヴェイギンズ教授は小柴さんが捕えた16万光年先の超新星を遥かに超える、数十億光年先の超新星から来るニュートリノを捕えようとしています。彼のアイデアはスーパー・カミオカンデ実験装置にガドリニウムを投入するもので、装置の優れた性能を損なわずにこれができることを証明するテストが現在進行中です。

一方、すばる望遠鏡に取り付ける新しいデジカメ、ハイパー・スプライト・カムが完成しました。9億画素を持ち3トンを超える重さのカメラを使って、今後5年間にわたる大観測計画が始まり、何億もの銀河を観測し、今までにない広く深い暗黒物質の分布図を明らかにし、暗黒物質と暗黒エネルギーの競争で形作られて来た宇宙の進化の歴史を教えてくれるはずです。

別のニュースですが、私はノルウェー、オスロでの2012年カプリ賞の授賞式典に参加し、受賞者の素晴らしい業績にとっても刺激を受けました。ノルウェー国王ハラルド5世の前では、今までの人生で着たことのない衣装をまとうことになりました。タキシード全一式です！とても思い出に残るイベントでしたし、宇宙を研究する他の5つのカプリ研究所の所長たちと前向きな協力関係の相談をすることもできました。

最近は十月末のWPIプログラム委員会のことで頭が一杯でした。あと5つあるWPI拠点の拠点長と一緒に、昨年の委員会以来の進展を報告し、5年延長についての一刻も早い決断を訴えてきました。その後Kavli IPMUの教員一人ずつと会い、沈没するタイタニックのような状況ではないことを説明しています。現在の資金が2017年で終わることから、先行き不安になる人がでるのも当然です。私はKavli IPMUが東大、日本の学術政策にとって大事なシンボルになってきていると思っており、力ある方々が私達の明るい未来を確かなものにして下さると信じています。

(2012年11月12日原稿受領)

